

チャレンジ!!オープンガバナンス

# COG

STEP2  
市民/学生の  
解決アイデア募集  
12/20/切

## データを活用し、地域課題を解決するコンテスト

### 市民も変わる、行政も変わる!! オープンガバナンス

- 市民も変わる : 地域の課題の解決に自分の問題として取り組む市民が増えていきます
- 学生も変わる : 市民参加型社会を担う未来の市民に自らを磨く学生が増えていきます
- 行政も変わる : 知識と経験を活かして市民参加型社会のプラットフォームとなります

#### STEP1

##### 自治体からの課題募集 (2018年6月~8月)

- ・全国の地方自治体から、市民/学生に解決してほしい地域課題を募集します。
- ・データを活用した新しい課題の分析や解決策に期待を寄せている自治体の方はぜひご応募ください。

地域課題は、自治体のご意向や市民・学生とのご希望を参考にお決めください。

##### <課題分類>

1. 高齢化・介護・医療・健康
2. 子育て・家族・教育
3. まちづくり・交通
4. 環境・エネルギー
5. 防災・防犯
6. 産業振興(一次、二次、三次)
7. 地域プロモーション
8. 観光
9. その他 10. 全体から応募者選定

関連データは、公開のデータを利用します。

#### STEP2 (いまここ)

##### 市民/学生の解決アイデア募集 (2018年9月~12月)

- ・市民/学生の方々から、自治体からの課題に対する解決アイデアを募集します。
- ・デザイン思考やデータ分析で課題を掘り下げ、自分たちで解決策に取り組みたいチームのご応募をお待ちしております。

市民/学生が「公開データ」を分析したり、人間観察のデザイン思考で課題を掘り下げ、解決のアイデアを磨きます。



#### 表彰

- ・オープンガバナンス総合賞(アイデア+連携体制)
- ・アイデア賞(市民/学生)
- ・連携体制賞(自治体)
- ・LINE学生賞・ハーバードイノベーション賞(案)

永遠のベータ版  
柔軟な心構えで  
楽しくチャレンジ

応募条件、審査基準は裏面を参照してください

Step3の予定:  
書類審査(2019年1月)  
→公開審査・結果発表(2019年3月)  
→今後のアドバイス(2019年4月)

# 1. チャレンジ！オープンガバナンス2018 の応募自治体と課題数（カギ括弧内）

- 北海道（2） 札幌市〔1〕、室蘭市〔3〕  
東北（4） 青森県八戸市〔3〕、宮城県仙台市〔1〕、山形県南陽市〔1〕、福島県会津若松市〔2〕  
関東（11） 茨城県水戸市〔1〕、千葉県流山市〔1〕、茂原市〔1〕、東京都文京区〔1〕、品川区〔1〕、中野区〔1〕、多摩市〔2〕、横浜市〔1〕、横浜市金沢区〔1〕、川崎市宮前区〔1〕、鎌倉市〔3〕  
北陸（3） 石川県金沢市〔1〕、福井県鯖江市〔3〕、越前市〔1〕  
中部（2） 静岡県裾野市〔1〕、菊川市〔1〕  
近畿（8） 滋賀県大津市〔1〕、近江八幡市〔1〕、草津市〔2〕、京都市〔1〕、大阪市〔1〕、豊中市〔2〕、兵庫県加古川市〔2〕、三田市〔1〕  
中国（2） 岡山県倉敷市〔1〕、山口県宇部市〔1〕  
四国（2） 香川県高松市〔1〕、愛媛県八幡浜市〔2〕  
九州（3） 福岡県北九州市〔1〕、熊本県玉名市〔1〕、宮崎県日南市〔1〕

それぞれの地域課題は、COG2018サイトをご覧ください。

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2018/#subject>

## 2. チャレンジ！オープンガバナンス2017 の市民／学生の応募条件

- ・その自治体に住むあるいは通う、もしくはその課題解決に強い熱意があるなどの何らかの形で地域にコミットし、地域課題の解決に貢献したいと考える市民／学生のチームであること。（学生：高校生、専門学校生、大学生、大学院生）
- ・市民だけのチーム、学生だけのチーム、その混成、いずれでも応募できます。
- ・リーダーは応募自治体に住む、あるいは通う方であることなどの要件があります。詳しくは[COG2018](#)サイトをどうぞ。

## 3. 市民／学生グループによる課題解決のアイデア募集(2018年12月20日締切)

課題解決につながる社会的サービスのアイデアを期待します。データや資料を活用して課題の具体化とアイデアのストーリーを語ってください。データを利用するアプリが実現手段として副次的に含まれることはあり得ますが、単にアプリの開発が目的ではありません。[COG2018](#)の応募用紙に沿ってアイデアの説明を記入します。

## 4. 審査項目：

【アイデア】以下の項目で応募アイデアを審査

- ① アイデアの内容（魅力、新規、実践し使いたくなる）
- ② アイデアの理由（根拠データと共に必要性・効果）
- ③ 実現のプロセス（実現可能性）

詳細は9月に公開する市民／学生の応募用紙で確認のこと

### <応募作業の流れ サンプル>

- ステージ1／根底の課題抽出（なぜのデザイン思考とデータ分析）  
ステージ2／アイデアづくり（何をのデザイン思考）  
ステージ3／応募の仕上げ（論理思考）

【連携体制】 アイデア出しとその実現のための市民／学生と自治体部署の連携体制

- （1）課題関連データの公開提供状況（問い合わせへの対応なども含む）、
- （2）応募アイデアが出来上がる際の、市民／学生の主体的な取り組みへのサポートの状況、
- （3）市民／学生と行政の双方向のオープンなコミュニケーションの場の活用の状況、
- （4）応募アイデアが実施に移行できるレベルに成熟した時に、自治体が市民／学生と協働して取り組む姿勢

審査委員（委員長以下は50音順、敬称略）			
城山英明	東京大学公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授（委員長）		
宇野重規	東京大学社会科学研究所教授	大橋 弘	東京大学大学院経済学研究科教授
川島宏一	筑波大学システム情報系社会学域教授		
国谷裕子	元NHKクローズアップ現代キャスター	坂井修一	東京大学大学院学情理工学系研究科教授
庄司昌彦	国際大学GLOCOM准教授		
関本義秀	東京大学生産技術研究所人間・社会系部門 准教授	林 千晶	MITメディアラボ所長補佐
渡辺美智子	慶応大学大学院健康マネジメント研究科教授（統計科学）		
運営コーディネーター：奥村裕一（東京大学公共政策大学院客員教授）			

詳細はこちらでご確認ください。「チャレンジ！！オープンガバナンス2018」ウェブサイト：

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2018/>

申請用事務局メール：[admin\\_padit\\_COG2018@pp.u-tokyo.ac.jp](mailto:admin_padit_COG2018@pp.u-tokyo.ac.jp)

問合せ事務局メール：[admin\\_padit@pp.u-tokyo.ac.jp](mailto:admin_padit@pp.u-tokyo.ac.jp)